



企業としての責任

アクサジャパンのフィナンシャル・プロテクション。

それは、より良い商品やサービスを開発し、提供することだけにとどまりません。

一生涯を通じた安心をお約束する企業として、お客さまから信頼され続けることがなにより重要です。

保険の世界ブランドAXAの一員として、アクサジャパンでは社員全員が常に高い意識を持ち、日々の業務に取り組んでいます。

リスク管理への取り組み

生命保険会社を取り巻く環境は、金融システム改革による規制緩和・自由化の方向へ大きくしかも急速に変化しており、これに伴ってそのリスクも増大、多様化しています。このような環境のなかで、経営の健全性を高め、企業価値を高めていくためには、保険会社自らが責任をもって経営を取り巻くさまざまなリスクを的確に認識・把握した上で適切にコントロールしていくことが必要不可欠です。

こうした認識のもと、アクサ グループライフ生命はリスク管理を経営の最重要課題のひとつと位置づけ、お客さまから選ばれる“日本で最良の保険グループ”を目指して、リスク管理体制の構築に取り組んでいます。

アクサ グループライフ生命のリスク管理体制

生命保険事業を運営するうえで生じる各種リスクについては、本社各部門による管理、業務運営会議による総合的管理、アクサ ジャパン ホールディングの主催するリスクマネジメント・コミッティーとマネジメント・コミッティーの意見を踏まえた取締役会による経営レベルでの管理を行なう体制をとっています。

主なリスクの管理体制については、以下の通りとなっています。

保険引受リスク管理

保険引受リスクとは、経済情勢や保険事故発生率(死亡率、入院率など)が保険料設定時の予測に反して変動することにより損失を被るリスクのことをいいます。

保険引受リスクについては、主計部において保険事故発生率の分析を行っており、必要に応じて契約引受の査定基準や保険料の改定などを行なっています。

事務リスク管理

事務リスクとは、事務処理の誤りや事故・不正などを原因として損失を被るリスクのことをいいます。

事務リスクについては、契約管理部が主に業務委託先の事務部門の事務リスクを、コーポレートプランニングが当社固有の事務リスクを管理し、事務水準の向上と事故の未然防止に努めています。

資産運用リスク管理

資産運用リスクについては、資産運用全体のリスクを総合的に管理する組織として、資産運用部門とは別にリスク管理部を設置し、相互牽制機能を確認しています。リスク管理部においては、リスクリミットの設定を

はじめとする資産運用に関するリスク管理基本方針の策定やリスクの計測、リスク状況のモニタリングおよび経営層への報告などを行なっています。

■ 信用リスク管理

信用リスクとは、投資先・与信先の財政・経営状態の悪化などにより、債権回収が困難となるリスクのことをいいます。

信用リスクについては、リスク管理部において保有資産のリスク量(VaR)を計測・管理し、個別案件の審査、同一先に対する与信枠の設定・管理を行なっています。

■ 市場リスク管理

市場リスクとは、有価証券や為替の市場変動により、保有資産の価値が変動するリスクのことをいいます。

市場リスクについては、リスク管理部においてデリバティブ取引を含めた保有資産のリスク量(VaR)を計測・管理しています。

システムリスク管理

システムリスクとは、コンピュータシステムの停止や誤作動など、システムの不備やコンピュータの不正使用により、損失を被るリスクのことをいいます。

AXAグループでは、情報システム全般にわたる厳格なセキュリティスタンダードガイドラインを設定して、情報システムおよびその中の情報の保護をグループ各社に義務づけており、グループ各社には毎年セキュリティレベルを向上させることが求められています。

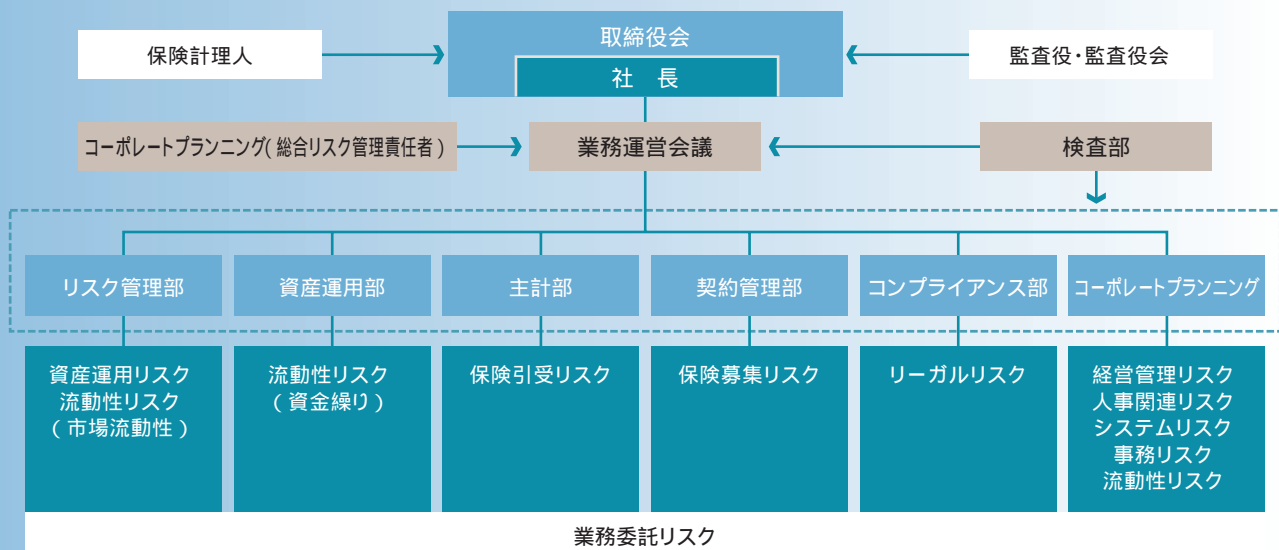
システムリスクについては、コーポレートプランニングにおいて業務委託先のモニタリングを含めて適正な管理に努めています。

リーガルリスク管理

リーガルリスクとは、経営判断や個別業務の遂行にあたって、他人の権利に対する侵害が発生したり、当社に対する信用の失墜などが生じるリスクのことをいいます。

リーガルリスクについては、コンプライアンス部においてリーガルリスクの管理に努めています。

アクサ グループライフ生命のリスク管理体制



コンプライアンス体制

コンプライアンス(法令等遵守)に対する社会的な関心が一段と高まる中、アクサ グループライフ生命は、生命保険会社に課せられた社会的責任を自覚し、ご契約者の信頼にお応えするために、コンプライアンスに関する取組みを経営上の最重要課題のひとつと捉え、コンプライアンスに立脚した健全で適切な業務運営体制の確立に努めています。



運営体制およびコンプライアンスマニュアルなど

アクサ グループライフ生命では、コンプライアンスに立脚した健全で適切な業務運営体制の確立を経営上の最重要課題のひとつと位置づけ、次のような取組みを行なっています。

- 1.「AXAグループの行動倫理規範(AXAグループ共通のコンプライアンス基本方針)」と「アクサジャパンのコンプライアンスポリシー」に基づき、役職員が遵守しなければならない、個々の業務遂行に関する「社内規則」および年度ごとのコンプライアンスプログラムを定め、倫理面、業務遂行面の両面からの社内ルールを定める体系となっています。さらに、コンプライアンスに資するため、定期的に「コンプライアンスマニュアル」を改訂し、全役職員に配布しています。
- 2.他部門と独立したコンプライアンス部を設置し、予防法務・対症法務を含め社内のコンプライアンス全般を統括するとともに、全役職員に対しコンプライアンス研修を実施しています。
- 3.各部門の業務運営にあたっては、第一義に当該業務の責任を負う部門自らがリーガルチェックを行ない、その上でコンプライアンス部による二重チェックおよびサポートを行なっています。

アクサ グループライフ生命は、今後ともこれら各部門の連携により全社を挙げたコンプライアンス体制の充実に取り組み、健全で適切な業務運営の確保を徹底していきます。



顧客情報の保護について

アクサ グループライフ生命では、契約の引受けや保険金の支払い等、業務上必要な範囲内でお客様の情報を収集させていただいております。これらの情報には、お客様のプライバシーに関する重要な情報が含まれていることを深く認識し、お客様の情報の保護を当社の最重要課題のひとつとして掲げ、さまざまな取り組みを行なっています。

顧客情報の保護に関する態勢

アクサ グループライフ生命では、2005年4月1日に全面施行された「個人情報の保護に関する法律」をはじめ、金融庁や社団法人生命保険協会が個人情報保護のために定めた各種のガイドラインや実務指針等に準拠しながら、お客様の情報を含む情報資産（以下、「情報資産」）を適切に管理するための基準や方法を定めた「情報資産の保護及び管理に関する規則」等の諸規程を整備しました。加えて、これらの規程を着実に実行するための体制として「情報資産管理統括責任者」の任命や、情報資産の保護および管理に関して全社横断的に統轄する組織の設置などを行ないました。また、情報資産の保護および管理に関して、その体制の整備や施策の実行について審議する機関として「情報資産保護委員会」を設置しています。

基本方針

アクサ グループライフ生命の個人情報保護に対する基本方針として、「プライバシーポリシー」を定め、ホームページ等で公表しておりますが、その要旨は以下のとおりです。

■ 情報を収集・利用する目的

お客様に関する情報を、次のような目的のために利用しています。

- ➔ 保険契約のお引き受け・ご継続・維持管理、保険金・給付金等のお支払い
- ➔ 関連会社・提携会社を含む各種商品・サービスのご案内・提供、ご契約の維持管理
- ➔ 当社業務に関する情報提供・運営管理、商品・サービスの充実
- ➔ その他保険に関連・付随する業務

■ 収集する情報の種類

情報を収集・利用する目的を達成するために、お客様に関する次の情報を主に収集しています。

- ➔ 氏名・性別・生年月日・住所・電話番号・メールアドレス・職業・勤務先・職務内容・被保険者や受取人との続柄・健康状態・保健医療に関する情報・年収・資産・取引経験・所属団体・金融機関口座・生死に関する情報等
- ➔ 保険契約に基づく保険金・給付金等の支払状況
- ➔ 保険契約の加入状況
- ➔ お客様、または公的機関から、適法かつ適正な方法により収集した、住民票等公的機関が発行する書類の記載事項
- ➔ 『金融機関等による顧客等の本人確認等に関する法律』に基づく本人確認書類の記載事項

■ 第三者への開示・提供

次の場合を除き、お客様の個人情報を第三者へ開示・提供いたしません。

- ➔ お客様の同意がある場合
- ➔ 各種法令に基づく場合

■ 情報の適切な管理

お客様に関する情報は、正確かつ最新なものに保つよう努めるとともに、社外への漏洩、滅失またはき損が発生しないよう万全を尽くしています。また、業務遂行上の必要性から外部業者に業務委託等を行なう場合についても、委託先等に機密保持義務を課すなどその管理・監督に努めております。

■ お客様からの開示等の求めに応じる方法

お客様が、ご自身に関する情報について「個人情報保護法に基づく開示等」をご請求される場合は、所定の請求書類等をご提出いただき、ご請求者ご本人であることをご確認させていただいたうえで、できる限り速やかに対応し、文書にて回答させていただきます。

具体的取り組み

■ 教育・訓練

役職員および外部委託先に対して、情報資産の保護および管理の重要性を周知徹底するとともに、情報資産の取り扱いに関する方針や諸規程等への理解を促進するために、必要な各種の教育・訓練を行なっています。また、事務所内で作業する外部委託先社員を含むすべての役職員との間で、当社のための業務遂行の過程において知り得た一切の個人情報を第三者に開示しない旨の守秘義務契約を締結しています。

■ 保管時の措置

情報資産に該当する文書や電子データを業務遂行に必要な範囲に限定して保管することができ、業務遂行に無関係な情報資産や参照性が薄れて不要となった情報資産は保管してはならないとしています。また、個人情報が記載された文書において、当該情報により識別される本人への連絡を行なうことができる情報を含むものは、キャビネットや書庫による施錠保管が徹底されています。

■ 郵送時の措置

お客様に対して個人情報が記録された文書を郵送する際には、封書化や目隠しシールを貼付する等により、その内容が第三者の目に触れないように配慮しています。

■ 廃棄時の措置

情報資産の漏洩を防ぐため、情報資産に該当する文書を廃棄する際には、シュレッダーによる裁断をするか、焼却・溶解を行なうことを徹底しています。

社会貢献活動

AXAにとって社会貢献活動は、フィナンシャル・プロテクションというコアビジネスの延長線上にある活動です。

AXAではこの社会貢献活動の柱として、

ボランティア活動、文化遺産へのサポート、地域活動(教育の支援や事故防止活動)の3つを掲げ、事業を展開するそれぞれの地域の特性に合わせた活動を行なっています。

アクサジャパンの主な社会貢献活動

アテネパラリンピック 日本選手団支援活動

オリンピックイヤーの2004年、アテネパラリンピック日本選手団を支援するために、イントラネットオークションを中心とする社内募金活動を展開し、社員から集まった募金約80万円に会社が同額を加算し、総額約160万円を財団法人日本障害者スポーツ協会に寄付しました。募金はアテネパラリンピックに出場する日本選手の強化訓練費として活用されました。

また、障害者スポーツに対する認知と関心を喚起することを目的として、6月から9月にかけて全国7都市(札幌、仙台、東京、横浜、名古屋、大阪、福岡)で、障害者スポーツ写真展「もうひとつのアテネへ」(入場無料)を開催しました。



AXAからメリークリスマス

クリスマスを経験できなかった子どもたちのために、2001年～2003年の各12月、全国9カ所の病院にクリスマスツリーをプレゼントしました。ツリーには、病院を訪問した社員の手によって、全国の社員から寄付されたデコレーションが飾り付けられました。一部の病院では、子どもたちと一緒に飾り付けや、ミニコンサートなども実施しました。



AXA2000

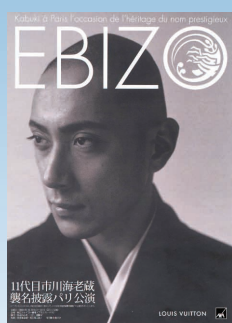
2000年6月16日・17日の2日間にわたり、AXAグループはワールドイベント「AXA2000」を開催。40カ国で3万人以上がボランティア活動に参加し、各国の地域ニーズに応じた社会貢献活動を行ないました。日本では、アクサジャパンをはじめ日本のAXAグループ企業の社員約1,300名が参加。日本全国に広がる営業店網を利用し、全国の主要な駅を訪問して車椅子への対応状況を確認、その結果を1冊の地図にまとめた「車椅子利用者のための全国ステーションマップ」の作成に取り組みました。このマップは、障害者団体などに無償配布されました。



全国チャリティボウリング大会の開催

参加者相互の親睦と健康の増進を図るという目的に加えて、社会貢献活動の一環として、「競技者の倒したピン1本につき1円以上のチャリティ募金を行なう」という「全国チャリティボウリング大会」を開催しています。約8,300名の参加者(社員や商工会議所・商工会の役職員の方々)から集められた募金は、全国各地の新聞社を通じて広く福祉事業の推進に活用されています。

11代目市川海老蔵襲名披露パリ公演



日本とフランスの文化交流促進と日本の伝統文化継承に対する支援を目的として、歌舞伎界初の試みであるヨーロッパでの襲名披露公演のサポートを行ないました。

生命保険協会を通じた社会貢献活動

生命保険事業は社会性・公共性の高い事業であることから、社会の発展に寄与するための社会貢献活動は重要なものであると考えています。アクサジャパンでは、社団法人生命保険協会および全国の地方生命保険協会を通じて、要介護老人支援策、募金・献血運動などさまざまな社会貢献活動に参加しています。